令和５年度研究推進計画

廿日市市立阿品台東小学校

学校教育目標	夢や目標に向かい　共に伸びる

１　研究主題

「自ら学びたくなる教育活動の創造」（３校共通研究主題）

～アセスメントを充実させることを通して全員参加の授業をめざして～

２　研究主題設定の理由

昨年度，研究主題を「自ら学びたくなる教育活動の創造～ICT の効果的な活用による思考力，判断力，表現力の育成～」とし，「教師のファシリテート」を中心に児童の思考力，判断力，表現力を育成するために授業研究を行った。ICT の効果的な活用については，思考の整理や課題の提示，意見の交流等，多様な方法で活用することができ，教師が話しすぎず，児童の言葉をつなぎながら授業が進んでいけるようなイメージを職員で意識統一をすることができた。また，ICT の活用をすることで，児童が意見を述べやすくなったり，さらに深め合ったりできるような深い学びにつながる場面が見られた。

昨年度の本校の児童の実態として次のようにとらえられる。まず，児童の強み（伸ばしたい）として，指示があったり，やることがはっきりと分かっていたりするときは，素直に取り組む・集中して取り組む・責任を果たすことができる。しかし，児童の弱み（力をつけたい）として，指示待ち・受け身，あきらめが早い，自信がない，他人に影響されやすいことである。つまり，「主体的に学び合う児童」を育成するには，これらの児童の強みを伸ばし，弱みを補充していけるような「安心感のある」授業と「自ら考えを表現できる」授業を積み重ねていくことが必要である。

そこで，今年度は，「安心感」と「表現できる」を保障するために，「自己決定の場を多く設定する授業」をキーワードにして，そのための「学級づくり」と「授業力向上」を強く意識し，研究内容を学校として共有化するとともに，日々の授業で再現可能なものにしていくことに取り組んでいく。さらに，子どもたち一人一人が学習課題に対して「自分はこう考える。」「できるようになった。」「自分の考えが役に立った。」「授業に参加できた。」という学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを目指していく。そのために，集団全体のアセスメントだけでなく個々の児童のアセスメントをしっかり行い，そのアセスメントを基に授業の中で「共感的な人間関係を育成し」，「自己存在感を実感させ」，「自己決定させる場を設定する」**生徒指導の三機能（全員参加をベースにした）**を授業の中にきちんと位置付けていく。

これらの取組を通して，強みを伸ばして弱さを補充し，「自ら学ぶ」児童の育成と「学力の向上」につなげることを主眼において研究を進めていきたい。

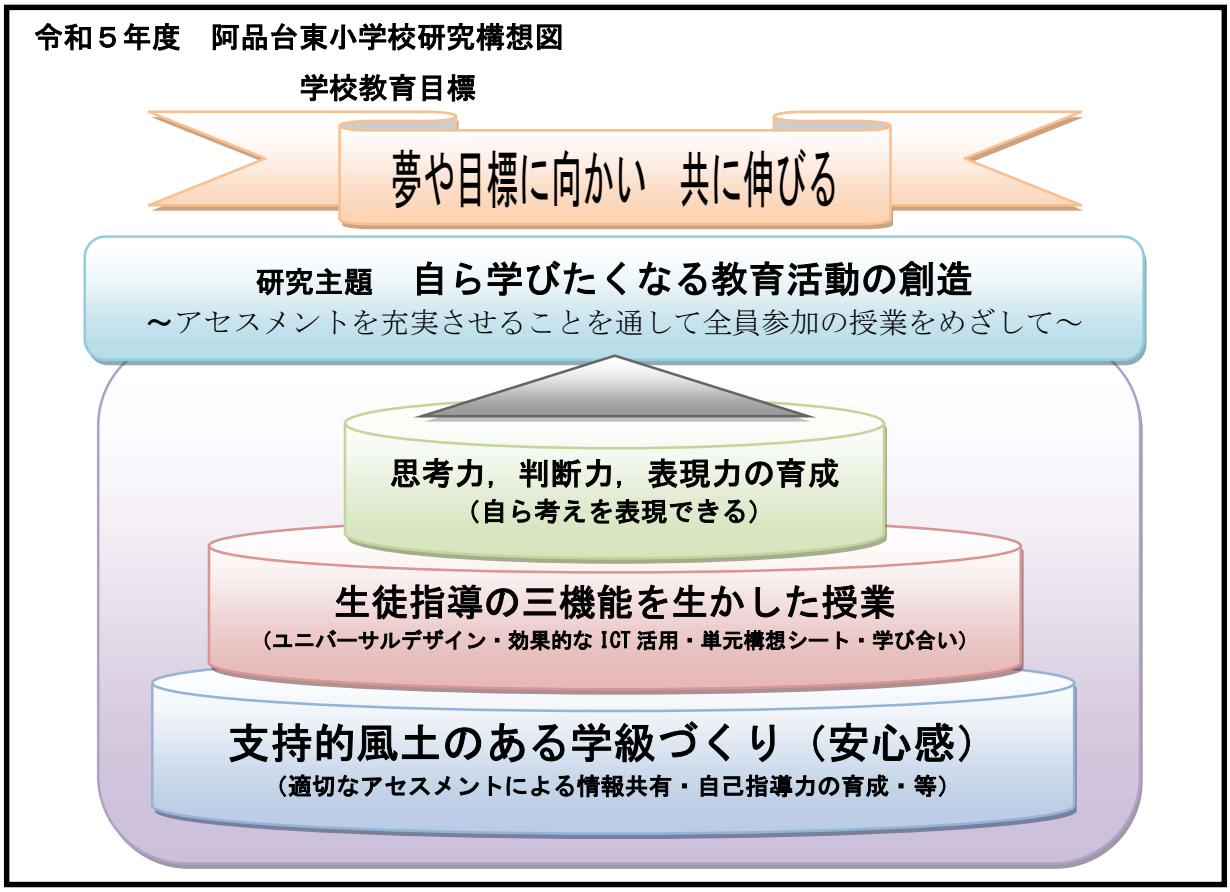
そこで今年度は，これまでの取組に加え，特に以下のような改善方策が必要であると考える。

○個々の児童の適切なアセスメントの実施
○全員が授業に参加できる導入や課題設定の工夫
○ICT 機器等を効果的に活用した学び合いの充実
○単元構想シートの活用による「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善
○ファシリテートを意識した発問の精選

以上のことから，今年度は，研究主題を「自ら学びたくなる教育活動の創造　～アセスメントを充実させることを通して全員参加の授業をめざして～」とし，授業に参加しにくい児

童の情報共有（アセスメント）を全職員で行うことにより，全員が参加できる授業づくりのための取組を行う。その際，昨年度まで積み上げてきたユニバーサルデザインの視点を用いた授業づくりや，効果的なICTの活用，単元構想シートの活用による「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善を行う。

３　研究構想図



４　研究仮説

各学級において，支持的風土のある学級づくりを土台として，個々の児童のアセスメントを充実させ，生徒指導の三機能を生かした授業づくりを実践することで，全員参加の授業を行うことができるであろう。

５　研究の視点

（１）児童のアセスメントにより考えられた支援が，授業に参加しにくい児童にとって効果的であったかを検証，改善し，実践を積み上げる。

（２）生徒指導の三機能を生かした授業づくりをすることで所属感を味わったり，自己肯定感を高められたりするような安心感のある学級づくりを目指す。

6　生徒指導の三機能を意識した指導上の工夫や働きかけの例

自己存在感を 与えるために	共感的な人間関係を 育成するために	自己決定の場を 与えるために
・どんな発言も受け止めて大切にする。 ・児童の実態を把握し，授業のどの場面で生かすか見通しをもって指導する。 ・つぶやきを積極的に取り上げて発言のチャンスを与える。 ・発言しない児童には認める，励ます等の配慮をする。 ・授業の中で承認や賞賛，励ましをする。	・どんな発言でも関心を示し，丁寧に聴く。 ・間違った応答を笑わないよう指導する。 ・一人一人を受け入れて価値付け，人間性を認める。 ・進んで自己開示し，児童から学ぶ姿勢をもつ。 ・教師主導にならず．児童の状況を把握しながら授業を進める。	・学習に興味・関心をもてるよう，資料や教材の提示の仕方を工夫する。 ・思考したり，観察したりする場面で，視点を明確に示す。 ・多様な考えを生む発問等の工夫をする。 ・一人で調べたり，考えたりする時間を十分に与える。

7　研究の内容

1	児童のアセスメントを充実させ，生徒指導の三機能をいかした学級づくり，授業づくり	○全職員による児童のアセスメント ○生徒指導の三機能やユニバーサルデザインの視点を用いた授業改善 ・生徒指導の三機能やユニバーサルデザインの考え方を取り入れ，全員が授業に参加でき，つまずきの要因分析から具体的手立てを考える。 ・教室環境の整備 ・発表の仕方，話の聞き方等
2	ICT機器等を効果的に活用する取組	○単元構想シートの活用による「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善 ○学び合い，かかわり合う場の設定 ○自分の考えを説明し合い，考えを深める場の設定 ・集団思考の場を設け，深い学びにする。
3	その他の取組	○学習規律の徹底 ・ガイドブック「学問のすすめ」を使って，学習準備，机上整理，授業始めのあいさつ等，全学年で実態に合った指導を行う。 ○放課後学習の充実 ・低学年を対象に放課後学習を行い，学習内容の確実な習得を図る。 ・家庭学習を授業内容と連動させ，保護者への啓発を行う。 ・学力調査の結果等を通して，課題意識を共有する。

8　研究授業のあり方

・ICT機器等を活用した授業研究を行い，授業改善を図る。
・生徒指導の三機能やユニバーサルデザインの考え方を取り入れ，支援対象児童のつまずきの要因を把握，分析し，支援方法を中心に検討する。（個々のアセスメントの充実）
・事前に各学年・ブロック・全体などで抽出児童の情報共有（アセスメント）を行い，より全ての児童が参加できる，したくなる授業にする。
・各学年で事前授業が可能な場合は，同じ指導案で授業を行い，改善を図る。
・研究授業で得た実践事例を全校で日々の授業に生かす。
・課題を次の研究授業に引継ぎ，改善を図る。

＜授業分析の視点＞

☆アセスメントを基にした，全員が授業に参加できる導入や課題設定の工夫がされていたか。

☆ICT 機器等を効果的に活用した学び合いの場が設定されていたか。

☆ファシリテートを意識した発問の精選がされていたか。

９　検証計画

	視点	方法	指標
1	学力が向上したか	・標準学力調査及び，学期末評価テストにより検証する。	・標準学力調査の結果，ステップ（到達度）１・２の割合が国語30％以下，算数20％以下になる。 ・6/11の学級で学期末評価テストの結果が業者指定の期待平均を上回る。
2	児童が全員授業に参加できたか	・教職員アンケートにより検証する。 「児童は全員授業に参加できているか。」	・教職員アンケートの肯定的評価の平均値が80％以上になる。
3	児童は学習に意欲的になっているか	・教職員アンケートにより検証する。 「児童は学習に意欲的になっているか。」	・教職員アンケートの肯定的評価の平均値が80％以上になる。

１０　育成を目指す資質・能力

資質・能力	目指す児童の姿		
	低学年	中学年	高学年
課題解決力	○進んで課題に取り組む。 ○課題解決に向けて，友だちと協力する。	○進んで課題に取り組み，解決のための手順を考える。 ○課題解決に向けて，異なる意見や他者の考えを受け入れながら，協力して活動する。	○進んで課題に取り組み，解決のための手順を考え，行動する。 ○課題解決に向けて，自分らしさを発揮したり他者の考えを尊重したりしながら，協働する。
向上心	○目標に向かってがんばる。 ○何事にもチャレンジする。	○目標を決め，それに向けて努力ができる。 ○失敗を恐れず，よりよくするために何事にもチャレンジする。	○よりよい自分を目指して目標をもち，努力し続ける。 ○自分の将来について考え，夢をもつ。 ○自分を振り返り，よりよい段階に向け，チャレンジする。
自己有用感	○友だち・自分のよいところに気付く。 ○他の人のために仕事ができる。 ○「ありがとう」が言える。	○友だちや自分のよさがわかり，それを表現する。 ○友だちや学級の役に立つことを進んで行う。 ○感謝の気持ちを素直に伝える。	○お互いのよさや個性を認め合った行動をとる。 ○クラスや学校での自分の役割を自覚し，積極的に活動する。 ○当たり前のことにも感謝の気持ちをもち，それを表現する。

１１　研修計画

〇年間予定

月	日	曜日	研修内容
4	6	木	〇研究推進について ・今年度の研究について（大枠） 〇学習ガイドブック「学問のすすめ」について ・「学習のきまり」（ノートの使い方・発表の仕方　等） ・学習規律の意識統一 〇ICT活用について ・ロイロノート・ドリルプラネット・無料アプリ（ドリル）
	１７	月	「学習のきまり」週間　１７日（月）～２１日（金）
	２７	木	研究推進計画について
5	中旬		児童アンケート・教職員アンケート
6	1	木	指導案検討①②及びアセスメントタイム（４年・５年）
	１９	月	「学習のきまり週間」　１９日（月）～２４日（金）
	２２	木	第１回校内授業研究（４年）
	２９	木	第２回校内授業研修（５年）
7	上旬		学習アンケート
	２４	月	１学期のまとめ
8	２２	火	指導案検討③及びアセスメントタイム（１年） ３校合同公開研究会　指導案検討１回目 （授業者）１・３・６年
	２８	月	スキルアップ研修 （ICT・単元構想シート・カリキュラムマネジメント　等） 全国学力・学習状況調査学の結果分析
9	４	月	「学習のきまり」週間　４日（月）～８日（金）
	２１	木	第３回校内授業研修（１年）
	下旬		児童アンケート（前期末）
１１	上旬		３校合同公開研究会　指導案検討２回目（授業者）
	１３	月	「学習のきまり」週間　１３日（月）～１７日（金）
	２４	金	◎３校合同公開研究会（阿品台東小学校）１・３・６年
１２	上旬		学習アンケート

	２５	月	２学期のまとめ
１	１５	月	「学習のきまり」週間　１５日（月）～２０日（金）
２	上旬		児童アンケート（後期） 研究に関するアンケート（教職員）
	２２	木	今年度取組の振り返りと研究のまとめ ・次年度に向けて
	２９	木	「学習のきまり」（学問のすすめ）の見直し 標準学力調査の分析